

所蔵品展No.159

新収蔵品紹介 花めぐり・静物画の世界

会期：4.18[火]～5.21[日]

休館日：月曜日

料金：一般 210円 (160円)、大学生 100円 (80円)

※()内は20名以上の団体料金。

※下関市と北九州市在住の65歳以上の方は半額免除。

※18歳以下、および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在学の生徒は、観覧料が免除されます。

※観覧料免除にはいずれも公的証明書が必要です。

※最新の情報は美術館HPをご確認ください。

新収蔵品紹介

令和4年度下関市立美術館では、洋画1点、水彩・素描3点、写真2件、資料2件が新たに収蔵されました。この度はこれらの作品・資料のなかから、約20点をご紹介します。

とくにご注目いただきたいのは、写真家・野村佐紀子と、ホログラフィ・アートのパイオニア・石井勢津子の作品です。野村が捉えた暗闇のなかを淡く照らす光は、わたしたちをどこか懐かしい気持ちにさせてくれます。石井が創り出す三次元の像は、角度により色や形が変化し、見る者を異世界へと誘います。この度は両氏の作品を同じ空間に展示することで、いつもとは異なる展示空間をご覧ください。



野村佐紀子『闇の音』より 1998年 ©Sakiko Nomura

花めぐり・静物画の世界

静物画とは、花や鳥など身近なモチーフを描いた絵画のことです。東洋では花鳥画として描かれてきました。花鳥画では、土から生える草花や川で泳ぐ魚など、「生きている事物」が描かれるのが特徴です。一方、西洋の静物画は、動かない事物を描いたもので、近代以降、日本でも描かれるようになります。

本展では、春の訪れを告げるような花が描かれた作品や静物画を約30点をご紹介します。「静物画の世界」では、江戸時代後期のものを中心に、大正から昭和にかけての花鳥画の表現や、近代以降の日本の洋画における静物画を展覧いたします。日本画と洋画で異なる表現をお楽しみください。



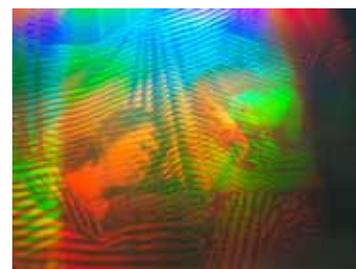
石井勢津子《Uの記憶》1999年 撮影：佐藤克秋



田能村竹田《鶉図》江戸時代後期



椿貞雄《静物》1956年



石井勢津子《Self portrait-Body with fabric A》2008年 撮影：佐藤克秋

新型コロナウイルス感染症対策について

- ・発熱のある方、咳・咽頭痛などの症状のある方は、入館をご遠慮ください。
- ・入館に際しては、手指の消毒、手洗い、他のお客様と距離を保つこと（2m程度）にご協力ください。
- ・作品、展示ケース、壁にさわらないでください。



下関市立美術館
Shimonoseki City Art Museum
(担当：藪田)

〒752-0986 山口県下関市長府黒門東町1-1
TEL. 083-245-4131 FAX. 083-245-6768
E-Mail kibijuts@city.shimonoseki.yamaguchi.jp
HP <https://www.city.shimonoseki.lg.jp/site/art>

詳細はHPへ!

下関市立美術館